



営農NEWS



ナシのハダニ類やナシヒメシンクイなどの防除を徹底しましょう

病害虫発生予報 7月号（県病害虫防除所）によると、6月下旬現在、ナシのハダニ類の寄生葉率（本年 0.12%、平年 0.01%）および発生地点率（本年 25%、平年 2%）ともに平年より高くなっています。例年は、気温が高くなる 7～8月にかけて寄生が多くなる傾向があり、昨年も発生が多かったことから、今後の発生状況には十分な注意が必要です。このため、園内をよく観察し、被害が確認されたら防除の徹底に努めてください。

<防除のポイント>

1. ハダニ類は発生が多くなると防除が困難となるので、**早期発見と発生初期のうちに防除**に努めてください。
2. 7～8月の乾燥期に多発生すると、早生種では葉焼けが助長され早期の落葉を招くので、防除を徹底します。
3. 薬剤抵抗性の発達を抑制するため、分類コードの異なる薬剤でローテーション防除します。
4. 他の害虫を対象に分類コード：3A（ピレスロイド系）の薬剤を散布すると、ハダニ類やカイガラムシ類が増加する場合がありますので、散布回数を最小限に抑えてください。
5. 薬剤防除を行う際には、**収穫前日数などの農薬使用基準に十分に注意**して、かけむらのよう丁寧に散布します。

表 1 ナシ ハダニ類の主な防除薬剤（令和元年 7月 8日現在）

薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類
マイトコーネフロアブル	1,000～1,500倍	収穫前日まで / 1回	20D
カネマイトフロアブル	1,000～1,500倍	収穫前日まで / 1回	20B
コロマイト水和剤	2,000倍	収穫前日まで / 1回	6
スターマイトフロアブル	2,000倍	収穫前日まで / 1回	25A
ダニコングフロアブル	2,000倍	収穫前日まで / 1回	25B
コテツフロアブル ※	2,000～3,000倍	収穫前日まで / 3回以内	13
カスケード乳剤	2,000倍	収穫 14日前まで / 2回以内	15

注) 1. ※印薬剤の対象害虫は、カンザワハダニ、ナミハダニなどです。

2. 分類欄には、IRAC コードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

2 ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイは年間 3～4 世代を繰り返す、通常、世代を重ねるほど発生量が多くなって、ナシでは 7～9 月の密度が最も高くなります。

病害虫発生予報 7月号（県病害虫防除所）によると、6月下旬現在、調査圃場でのナシヒメシンクイの発生は平年並ですが、フェロモントラップへの第一世代成虫の誘殺数は地点により多い～並で、7月の発生量は平年よりやや多いと予想しているため、果実被害の発生防止に十分な注意が必要です。

なお、ナシ果実の被害が大きくなる**ナシヒメシンクイ（第三世代）幼虫に対する防除適期は 7月中～下旬頃**とされていますので「露地赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例」または下記を参考に、確実に薬剤防除を実施してください。

また、通常は防除適期が 8月中旬～9月上旬頃となる（第四世代）幼虫についても、今後の発生予察情報等を参考にして適期防除に努めてください。

表 2 ナシ シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ）の主な防除薬剤（令和元年 7月 8日現在）

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類	参考防除例に記載
MR. ジョーカー水和剤	2,000倍	収穫 14日前まで / 2回以内	3A	7月中旬
ディアナWDG	5,000～10,000倍	収穫前日まで / 2回以内	5	7月下旬
スカウトフロアブル	2,000倍	収穫前日まで / 5回以内	3A	8月上旬
ロディー水和剤	1,000～1,500倍	収穫前日まで / 2回以内	3A	8月中旬
エクシレルSE	2,500～5,000倍	収穫前日まで / 3回以内	28	
バリアード顆粒水和剤	2,000～4,000倍	収穫前日まで / 3回以内	4A	
オリオン水和剤 40	1,000倍	収穫 3日前まで / 2回以内	1A	
アディオン乳剤	2,000～3,000倍	収穫前日まで / 2回以内	3A	

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040